Bibliophiles

ビブリオファイルズ　No.5(2017 年度)

新着図書案内・お知らせ　西宮東高校図書館

（ここで紹介するのは新しい本の一部です。）

『チア☆ダン「女子高生がチアダンスで全米制覇しちゃったホントの話」の真実』

円山夢久

広瀬すず主演で映画化された実話の、ノンフィクション本です。何の実績もない保健体育科の女性高校教師が、フツーの女子高生にチアダンスをやらせて、たった３年間で全米優勝してしまった、というすごい話です。その女性教師はこの本のあとがきでこう語っています。「ただ夢見るだけで、特に大したことをせず大人になってしまった私のような者でも夢を叶えられたのだから、きっと読者の方々にもチャンスはたくさん転がっているはずだ。」

『赤毛のアン』

モンゴメリ　作　松本侑子　訳

村岡花子の訳で「児童文学」として有名な作品ですが、作家でもある翻訳者の松本侑子氏によれば、「赤毛のアン」は古風な文体を持った大人向けの小説なのだそうです。そこで彼女は村岡訳で大幅に省略されている場面も含めて全文章を翻訳し、なおかつ８０ページ以上に及ぶ詳しい註解を付けて、モンゴメリの意図した「大人向けのアン」に迫ろうと試みました。

『毒になる親』

スーザン・フォワード

「毒親」という言葉を流行させた本です。子どもを虐待する親、過剰にコントロールする親、暴力をふるう親・・カウンセラーの作者によると、こうした子どもに悪影響を与える親は多いそうです。また、そうした親のもとで育った子どもが、そのことに無自覚（悪い親とは思っていない）だと、今度は自分の子どもを虐待したり、いつも人間関係がうまくいかなかったり、自分が「ニセモノ」だという不安感があったりと、さまざまな問題を抱えているケースも大変多いそうです。ご一読を。

『宇宙一わかりやすい高校物理』

鯉沼拓　作　　為近和彦　監修

現役の東大生が書いた、イラスト・図解付きの物理参考書です。「大学生が書いた本？」と不安になる人がいるかも知れませんが、代々木ゼミナールの物理の人気講師の為近氏が監修していますから、内容も信頼して良さそうです。むしろ、若者目線で書かれた説明は分かりやすいと評判で、結構人気がある本ですよ。試してみては？

『反応しない練習』　　草薙龍瞬

異色の経歴の持ち主で、作者は中学を中退後、家出して放浪、大検を経て東大法学部に入学しました。しかしその後エリートコースではなくて仏教の道を志し、出家しています。まさに波乱万丈の人生ですね。この本は、ひと言で言えばひとが「悩む」ことをやめるためのトレーニングの本です。作者によると、多くの人は「あれもしなくちゃ、これもしなくちゃ」とむやみに不安に駆られたり、「どうせ自分なんてダメだ」と無駄な自己評価を下したりして「悩んで」います。仏教の知恵の観点から、そうした悩みから解放される方法をこの本は教えてくれます。

『ハリネズミの願い』

トーン・テヘレン

自分に自信のない臆病で孤独なハリネズミが主人公の、心温まる大人の童話です。彼は自分のからだのハリが大嫌いで、みんなから嫌われるのでは、と今まで誰も家に招待したことがありませんでした。しかし勇気をふりしぼって「キミたちみんなを招待します。」という招待状を書いたまではいいものの、「今はまだ送るのはやめておこう」と、手紙をしまってしまいます。しかし、そんなハリネズミの家にやってきたのは・・

図書館からのお知らせ

今年の東高祭における図書委員の発表は、図書館で行います。展示や雑誌の無料配布のほか、本の読み聞かせも行います。

また図書を借りられる時間帯もありますので、たとえば東高祭中の空き時間などに、息抜きでご利用いただけますよ。

『アキラとあきら』

池井戸潤

「下町ロケット」でもおなじみの作家の最新作です。テレビの某有料放送チャンネルでも、早速この７月からドラマ化されて放映予定です。（私は加入してませんから見られませんが。－m－　）同じ「アキラ」という名前を持ってますが、かたや零細工場の息子、かたや大手会社の御曹司という、対極的な二人の主人公をめぐる物語です。逆境に立ち向かうふたりのアキラの、人間模様が見ものです。

今号のひとこと

井蛙（せいあ）は以って海を語るべからざるは、虚（きょ）に拘（かかわ）ればなり。

荘子（そうじ、紀元前 369 頃―紀元前 286 頃）

「井戸の中の蛙に海のことを話しても理解されないのは、自分のいる狭い場所にとらわれているからだ。」という意味です。そう、ピンときた人もいるでしょうが、この 2300 年ほども前の中国の名言から、「井の中の蛙（かわず）」とか「井の中の蛙、大海を知らず。」といった日本語のことわざが生まれました。オリジナルがそんなに古い言葉だったと皆さんは知っていましたでしょうか？

荘子のオリジナルでは、このあとに「夏の虫に氷のことを話しても」、また「田舎ものに世界の真理を話しても」理解されない、という言葉が続きます。これに対して、日本語の方では「井の中の蛙、大海を知らず。されど天の高きを知る。」または「空の青さを知る。」などという進化形（？）があるみたいですね。